

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【泉南地域の中核的公立高校として、思いやりのある人を育成し、地域に信頼される学校をめざす。】

- 1 課題解決能力（主体的に課題を発見して、ICTを用いた情報収集、論理的に思考する力）および発表する能力を育み、「確かな学力」を育成する。
- 2 グローバルな視点を持ち、「自己実現」と地域社会に貢献できる人を育成する。
- 3 思いやりのある人間性を育み、未来の創り手となる人を育成する。
- 4 生徒の成長とともに、教師も学びながら新たな課題に取り組む同僚性の高い学校組織を構築する。

2 中期的目標

- 1 「**確かな学力**」を育成する。
 - (1) 学びを人生や社会生活に活かせるよう、早期にキャリアを展望させ、働く知識・技能の習得など、新しい時代の変化の中で学び続けられる資質・能力の育成をするため、主体的・対話的・深い学びの視点からの授業改善に取り組む。
 - ア 相互授業公開や研究授業、1人1台端末の活用、他校好事例の見学。
 - イ ICT機器を効果的に利活用し、協働的な学びと一斉学習を併存的に展開し、学びの深化を図る。
 - (2) 学校教育自己診断および授業アンケートなどを効果的に活用した授業改善に一層取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（R2：59.2%、R3：57.3%、R4：69.5%）を毎年引き上げ、R7年度には70%にする。
- 2 **地域に根差した高校**として、「**自己実現**」「**自律心**」を育成する。
 - (1) 自らの学習状況やキャリア形成を見通し、それぞれがより高い進路実現をめざす。

※国公立大学、公務員就職者は少なくとも一人ずつ、大学と看護医療系学校（R2：42名、R3：50名、R4：54名）などの合格者は毎年50名以上輩出する。

※キャリアパスポートを用いて学習の記録をポートフォリオ的に記録し、進学・就職時に活用できるようにする。
 - (2) 特色ある教育活動の充実。
 - ア 「ハートフルほいく専門コース」をさらに充実させる。
 - イ 学校行事への地域住民の参画、連携の拡大。
 - ウ 国際理解教育をさらに充実させる。
 - (3) 社会に開かれた学校づくりを更に推進し、その取組みはホームページ等を活用しての広報を充実する。
 - ア 有志による通学路清掃活動（のべ参加者数：R2：先着40名、R3：80名限定、R4：187名）を毎年実施。
 - イ 学習発表の場として地域イベントへの積極的な参画。
 - ウ ホームページのコンテンツ充実とメール発信ツールの効果的活用。
 - (4) 社会構成員としての自覚を高める。
 - ア 遅刻・早退・欠席等を減少させ、基本的な生活習慣を確立する。

※全学年年間遅刻件数（R2：8.0回/人・年、R3：8.5回/人・年、R4：9.9回/人・年）を毎年徐々に減らしR7年度に7.0回/人・年とする。
 - イ 通学マナーの向上と広域生徒指導の定着を図る。
- 3 **思いやりのある人間性をはぐくみ、未来の創り手となる人を育成する。**
 - (1) 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実。

校内支援体制の更なる充実とともに、福祉医療関係人材・SC等外部機関との連携をより深め、障がいのある生徒、そうでない生徒、課題のある生徒、そうでない生徒等、すべての生徒の学びと育ちを支援する。

 - ア 「自尊心」の育成と「多様な個性」「ともに生きる社会」について理解を深める教育を推進する。
 - イ **人権教育**の計画的実施と研修及び共同学習の推進。

※人権尊重の教育を充実させ、対人関係に起因するトラブルの未然防止に繋げる。
 - ウ 生徒の変化や人間関係のトラブルを見逃さず認知に努め、関係機関と連携して、校内委員会を開催し、未然防止、対応、解決に向かう。
 - (2) 特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成する。
 - ア 部活動やボランティア活動を通じて社会貢献の意識を高める。
 - イ 学校行事を通して集団の中での人間関係の大切さと集団への帰属意識を高める。
 - (3) 健康・美化・防災への意識を向上し、清潔で整備された安全で安心な教育環境を維持する。
 - ア 感染症に係る対応を状況に合わせて継続する。
 - イ 日々の清掃活動の充実を図るとともに、施設・設備の点検、維持管理、更新などに積極的に取り組む。

※学校施設の機能強化（安全・保健衛生・長寿命化）の為に総点検を実施し課題を抽出する。
 - ウ 避難訓練を火災、南海トラフ大地震およびJアラートを想定して計画・実施する。
- 4 **新たな課題に取り組む同僚性の高い学校組織を構築**
 - (1) 教育課題と向き合い、時代の変化に対応できる教職員の育成を図る。
 - ア 時代の変化に柔軟に対応できる学校文化の醸成と教員力を向上するため、組織的・計画的な授業改善研修を軸とした研修を実施する。
 - (2) 教職員の**働き方改革**と健康管理の観点から、週一回午後5時定時退庁日を設定し、教員一人ひとりの意識改革を推進。
 - ア 組織として業務に取り組み、時間外勤務縮減に向けた取り組みの促進や勤務時間の自己管理の徹底。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔生徒教員は12月、保護者は1月実施〕	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殆どの設問について、昨年度からの増減が5%以内となっており明確な変化はない。 ・問1「学校に行くのが楽しい」78.1%、問19「学校は、生徒1人1台端末を有効に活用している」56.9%については、8%を超える数値の下降があった。 ・問2「学校の授業は楽しくわかりやすい」76.9%、問11「りんくう翔南高校の生徒会活動は活発である」65.0%、問14「地震・火災などの災害の時の避難経路を、具体的に教えてもらっている」72.2%については5%を超える数値の上昇があった。 <p>昨年度はコロナ禍の制限がなくなったことで通常に活動ができることに好意的な評価であったが今年度は慣れも出てきていると思われる。地域連携や異校種交流など、校外との交流については44.2%と低迷している。また、1人1台端末の活用については8.7%下降し、56.9%となっており、生徒のニーズに応えることができていない。</p> <p>【保護者対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近々の6年間で、回答率が30%を上回ることが無かったが、今年度は36.8%の回答率があった。 ・回答率は増加したが多くの項目では変化が微小であった。 ・変化があった項目として問12「りんくう翔南高校の部活動は活発であると思う」が7.3%下降し41.9%に、問14「地震・火災などの災害の時の経路の避難経路を、具体的に教えてもらっているようだ」が8.4%下降し58.6%となっている。 ・問12今年度の本校のクラブ加入率は27.2%にとどまっております、更なるクラブ活性化が必要である。一方、私学の無償化、少子化及び府立高校の再編整備などの影響を受け入学してくる生徒の多様化が進む中、教科指導以外の生徒支援や就職支援業務に割かれる時間が増加しているのは明らかで、働き方改革の推進も求められる中で許される範囲内での改善に努める。 ・問14については、調査を行った時期に北陸地方で大きな地震があり、保護者の災害に対する意識が高まったことが大きな要因と考える。本校としては、これまでも避難訓練など防災教育に力を入れてきたが、義務教育とは異なり複数の市町から通学する高等学校として、更に安否確認システムの構築と試行を進める。 <p>【教員対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去5年間、教員からの回答率は50%台を推移していたが、今年度は84%の回答があった。 ・回答率が上昇した一方で、全ての項目において昨年度の数値から下降している。 ・30%を超える下降があるものとして、問9「基礎学力診断テストとその結果は、生徒の実力や進路について考えるのに役立つ」20.6%、問12「学校として、部活動の活性化について工夫している」29.4%、問25「本年度、アクティブラーニングの導入に積極的に取り組んだ」35.3%の3項目があった。 ・20%を超える下降があるものとして、問11「学校として、生徒会活動の活性化について工夫している」42.9%、問13「教育活動において、生徒が命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会を作るように配慮している」68.6%、問18「教育活動に必要な情報について生徒・保護者や地域への周知に努めている」64.7%があった。 ・下降幅が少ない設問として問22「問題行動の防止のために、早期指導に学校全体で取り組んでいる」85.7%、問23「学校の教育活動について、日頃から教職員で話し合っている」77.1%、問26「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」82.9%があげられる。これらは、不適切行動やいじめなど、生徒指導に直結する設問であり学校全体が一丸となって取り組んでいることが読み取れる一方、絶えず生徒指導案件やいじめ事象が発生している本校の現状を示しており、膨大な問題事象に対応する教員の研究と収容の時間が確保できず、部活動の活性化や、生徒が主体的に取り組む授業の実現の支障となっていることを示している。 <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の主たる活動である授業に注目すると、生徒は問2「学校の授業はわかりやすい」76.9%、問3「自分は授業に集中して取り組んでいる」84.9%でそれぞれ高評価している一方、教員は問2「生徒はあなたの授業を理解している」63.9%、問3「あなたの授業中、生徒は集中している」44.4%と低評価している。生徒にとってわかりやすい授業、興味関心を持つ授業ができてくると、意識の乖離が小さくなると思われる。 	<p>【第1回会議】（7月26日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1人1台端末の活用状況は、使用場所や用途に工夫し、リアルタイムでの配信も併せて活用すれば働き方改革にもつながるのでは。 ●確かな学力、基礎学力の指標は校内で定める基準だけでなく、大阪府や全国の中でのポジションがわかることが重要。学習習慣や基礎学力の定着が重要。 ●登下校時に教員が立ち番をしているのは評価できる。全教員が同じ方向で指導を行うための体制づくりが重要。全教員が協力して生徒指導できることを期待している。 ●夢を持っているが、現実的な対応ができない生徒が多い。直接的で一人ひとりに合わせた具体的な指導が必要。「こんな世界があるんだよ」という情報も生徒に提供することが重要。 ●看護コースは看護系の大学や専門学校を受験する生徒が多い現状を踏まえ、看護職に向けたマインドを育てるのが目的のコースと聞いているが、中学生で理系の志向を持った生徒が志願することを妨げることが無いよう、丁寧な説明と配慮が必要。 <p>【第2回会議】（11月20日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●去年と今年は定員割れしている。泉鳥取高校を受験していた層の中学生がりんくう翔南高校に流れてこなかった理由の一つとして私学の授業料無償化により経済面での私学入学へのハードルが下がったのが大きな要因があると思われる。私学の授業料無償化をしたことで公立高校の志願者が減少することは予測できることではなかったか。 ●泉南市内の一部の中学校は1クラスの生徒数が最大30人。それに比べると教室の圧迫感を感じた。若い先生もいきいきと元気に授業されていると感じた。1クラスの人数が30人を超えたら指導はしんどいと思う。20人台だとお互いの気持が通じる感覚があるが、人数が多いと難しい。先生と生徒が心通じ合うような授業ができるような環境をつくれればよいと感じる ●教室のサイズが思ったよりも狭いという印象を受けた。定員を下回することは残念なことであるが、クラスの人数が減れば、多様化する生徒にきめ細かい生徒対応が可能となるメリットが生まれるはず。本来なら、生徒の数が減るに従って教室の密度は下がるはずが、府立高校を統廃合することにより、教室の人口密度が上がる傾向というのはいかがなものか。 ●ICT機器の活用がプロジェクタの投影レベルに留まっている印象。1人1台端末を導入しているのであれば、効果的な活用を図る必要がある。 ●新型コロナ明けで状況がかわっている。不登校の生徒の人数も増え、授業以外の業務が増えているのでは。担任を設定せず全員が担任になるとか工夫が必要ではないか。クラス数を7クラスにして、そのための加配の要求はできないのか。元気がありすぎる生徒もいる中で大人しい子がやっていくためには工夫が必要。 ●2年は一般に中だるみの時期だが、基礎力診断テストの結果では比較的成績が落ち込んでいない。勉強に取り組みたい生徒が取り組める環境づくりが大事と感じる。「このテーマは深掘りしたいんだ」という授業回では、クラスの人数を半分にして取り組めるような仕組みづくりがあるとよい。少ない人数なら取り組みやすいし、生徒同士で教え合うことも期待できる。 <p>【第3回会議】（2月5日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●授業アンケートおよび学校教育自己診断の結果について思うことは、全国的に大学進学率上がっているが本校では上がっていない。地元で就職希望を持った生徒像が中心と解釈している。学校によって生徒の進路のニーズは異なる。大学や短大への進学がスタンダードではなく、顧客である生徒やその保護者のニーズを正しくとらえることで、よりよいサービスが提供できる。 ●全ての学年で新カリが導入されることで入試の体制も大きく変わる。それに対して高校側の準備やコンセンサスはあるか？どう変えてゆくべきかについては教員が自ら指導要領から読み取って自分たちで考えていかないといけない。個々の生徒が自分に最適な進路を自分で調べるといった自分自身で解決するプロセスが求められる、いわばアクティブラーニングの実践が必要。例えば1人1台端末があるから単に使うということではなく、あえて教員が教えない部分も残すことが大事。技術の進歩が速いため、知識のある立場の教員が、知識のない生徒に教えていけばよいという構造が通用しない状況になっている。既に大学共通テストでは、教科書にのっていない内容も出題されているが、これは生徒が各単元について自分達で考察し深める活動に取り組んでいることが前提になっていると考えられる。教員には、生徒が自ら活動し、各単元について理解を深める様子をどれだけ我慢して見ていられるかが求められていると考える。 ●地域の歯医者や店舗にいくと卒業生がたくさん働いている。仕事の関係で幼稚園などに行くことがあるが、沢山の卒業生が地元で頑張っている。そういった生徒を育てているのが本校の強みである。自分で考えて判断して答え導き出すことができる人材を育てられていると感じている。 ●学校経営計画では評価指標として数値化している項目が多くあるが、学校教育において数字を示すのが全てなのか。個々の生徒の声を示した方がこういった報告では説得力をもつのではないかと感じる。進学実績を数値で示すことがアピールにつながる学校であれば数値化は有効であるが、地域で活躍できる人材育成が求められるような学校では、評価指標を数値化すること自体がなじまないのではないかと感じる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標【R4年度値】	自己評価
1 「確かな学力」の育成	<p>(1) 新学習指導要領を見据えた(主体的・対話的・深い学び)の視点からの授業改善</p> <p>(2) 特色ある教育活動の充実</p> <p>(3) インクルーシブ教育システムの更なる推進</p>	<p>(1) ア・授業の相互見学や研究授業の実施とその後の研究協議や振り返りシートのフィードバック。 ・アクティブラーニング等の授業方法の研究実践。</p> <p>イ・授業改善を軸に、あらゆる教育活動におけるICT機器の利用拡大。</p> <p>(2) ア・グローバル人材育成のため、SDGs(持続可能な開発目標)の視点も踏まえ、国際理解教育委員会による交流行事の充実と活性化を進める。【国際交流代表団の派遣継続】</p> <p>・地域の日本語教室やNPO等と協力して、多文化理解の取組みを進める。</p> <p>・国際的共通語として中心的な役割を果たす英語力をバランスよく育成するため、英語で話す機会の確保。</p> <p>イ・ハートフルほいく専門コースの充実。 ・大学、短大、専門学校との連携推進。</p> <p>(3) ア 専門家との連携、研修の充実 イ 交流及び共同学習の推進</p>	<p>(1) ア・授業アンケートの結果平均3.1以上を維持する。【3.34】 ・学校教育自己診断における授業満足度を上昇させる。【69.5%】</p> <p>イ・教科指導におけるICT機器の活用を増加させる。【ICT活用確認 第1回授業見学時:28人、第2回授業見学時:24名】</p> <p>(2) ア・国際交流事業を発展的に継続させる。【IC香港とのWeb交流11名参加】</p> <p>・多文化理解の取組みへの参加を奨励する。【0回】</p> <p>・校内で英語を用いて発表をする教育活動を実施する。【新規】</p> <p>イ・ハートフルほいく専門コースの授業での成果発表を、校内校外を問わず年3回以上実施する。【新規】</p> <p>・大学・短大・専門学校等の連携を2校以上とする【2校】</p> <p>・大学、短大、専門学校との連携授業を年10回以上実施する。</p> <p>(3) ア・教職員研修及び生徒対象の講演会、担当者による研修報告会を例年並みとする。【教職員研修等5回】</p> <p>イ・支援学校との交流を推進、発展させる。【教員が訪問1回】</p>	<p>(1) ア・授業アンケートの平均は3.35(教諭以上)と昨年度とほぼ同数値であった。(○) ・学校教育自己診断における生徒の授業満足度が7.4%上昇し78.9%になった。一方、教員の生徒が授業を理解しているという項目では16.1%下降し63.9%、生徒が授業に集中しているかの項目については19.6%下降の44.4%となっており、乖離がみられる。(○)</p> <p>イ・授業見学時ICT活用者は第1回:23人、第2回24人。プロジェクタの電子ペンを生徒に使用させる授業や、1人1台端末で資料の配布、宿題の提出を学習支援クラウドサービスで行う授業もあった。国際交流ではWeb会議システムやクイズアプリ、デジタルホワイトボード等を用いて香港の生徒と交流をした。(○)</p> <p>(2) ア・海外への派遣は実施せず、代替で11月と1月に2回、10名の生徒が「インターナショナル・カレッジ・香港」とWeb交流に参加。事前学習で参加生徒は自己紹介とディスカッションで話すテーマについて考えた。当日は英語と日本語で交流を実施。引き続きグローバル人材育成を継続する。(○)</p> <p>・JICAに参加しアフリカの難民キャンプで活動している講師を呼び、3年生全員を対象に人権講演会を実施した。多文化理解のみならず世界的な問題に対して生徒一人ひとりがどのような取り組みができるか考える機会となった。1回実施。(○)</p> <p>・校内学習発表会の際に国際交流の成果を英語で発表した。(○)</p> <p>イ・地域子育て支援センターと協力して校内で地域の保護者と乳幼児を含む子どもを招いて交流会を実施した。保育園に2回訪問しハンドベル演奏、ペープサート(紙人形芝居)を行った。また、学年別に校内学習発表会でハートフルほいくコースの取り組みを動画やダンスを交えて発表をした。発表回数計5回(○)</p> <p>・幼稚園教諭の資格取得を目的としたと短期大学と本校指定の給付型奨学金制度の協定を結んだ。専門学校と食のエキスポ共創チャレンジ協力校として新作チョコレートの開発に協力した。2校。(○)</p> <p>・短期大学、専門学校、日本乳業協会等と連携して授業を実施した。保育、調理、製菓、介護等の分野を中心に専門家による授業や実習を受けて将来の進路決定の動機につながった。10回実施(○)</p> <p>(3) ア・LGBTQや肢体障がい当事者や、犯罪加害者「立ち直り」支援に取り組む方、在日韓国人のパフォーマーの公演に加え、アフリカの難民問題を考える講演会を開いた。教職員研修と学年ごとに講演会を開催した。講演会後の生徒の感想はいずれも肯定的評価が高く、自分の進路と関連付けて考える生徒も増えた。計6回実施。(○)</p> <p>イ・【首席】生徒間の交流は未実施。教員が訪問。(△)</p>

府立りんくう翔南高等学校

<p>2 地域に根差した高校として「自己実現」「自律心」の育成</p>	<p>(1) 自律心を高めて規律ある学校生活を送る。</p> <p>(2) 一人ひとりの希望する進路を実現する。</p> <p>(3) ウェブサイトや学校通信などの広報活動を充実させ、地域に開かれた学校づくりを更に推進する。</p>	<p>(1) ア・全校一斉指導（服装・頭髪・身だしなみ指導）を充実させ規範意識を高める。 ・式典（始業式・終業式）での校歌斉唱及び正装の徹底を図り儀式的行事感を身に付ける。</p> <p>イ・広域生徒指導を定着させる。</p> <p>(2) ア・高大接続改革（大学入試制度の変更：多面的評価の導入）へ対応。 ・進路実現に向けた外部模試の有効活用</p> <p>イ・定期考査前補習や進学希望者補習の実施と、教育産業との連携及び特講（進学補習）や夏期自主勉強週間の充実。</p> <p>ウ・それぞれの進路実現のサポート。（一つ上の進路目標を意識） ・指定校推薦やA0入試に頼らず、一般入試や公募制推薦入試を活用した進路実現の拡大。</p> <p>エ・就職希望者向けに就職講座を実施し、求人票の見方、願書の書き方、面接練習といった実践的な指導を行う。</p> <p>(3) ア・学校行事への地域住民の参画、連携の拡大</p> <p>イ・メール発信ツールやホームページを充実させる。</p> <p>ウ・地域イベントへの積極的な参画。</p> <p>エ・学校紹介の充実。</p>	<p>(1) ア・停学を伴う特別指導案件数を昨年並みとする。 【23件、31名】</p> <p>・全学年総年間遅刻件数を生徒一人当たり昨年並とする。【平均9.9回】</p> <p>・式典時、自主的に整列ができるようにする。</p> <p>イ・広域生徒指導を例年並みに実施する。【警察との連携1回】</p> <p>(2) ア・キャリアパスポートを各学期に2部程度作成する。【2部】 ・外部模試受験者数を20名程度とする。【8人】</p> <p>イ・特講、夏期自主勉強会の企画、実施。【61回】</p> <p>ウ・国公立大学や公務員合格を絶やさない。【0人】</p> <p>・公募制推薦入試等合格者数を10名程度とする。【5人】</p> <p>エ・進路未決定者（進学浪人を含まず）を3%以下に抑える。【4.8%】</p> <p>(3) ア・体育祭、翔南祭への地域住民の参画を奨励する。 【保護者は入場実施】</p> <p>イ・メール発信ツールへの登録者数を増加させる。 【1,216件】</p> <p>・メール発信ツールを昨年並みに有効に活用する。 【メール発信 44件】</p> <p>ウ・地域連携活動を15回程度とする。【7回】</p> <p>エ・学校説明会申し込み中学生数を増加させる。 【283人】</p> <p>・中学校、近隣私塾へのアプローチ回数を例年並みとする。【中学校訪問延80+私塾は3校に資料送付】</p>	<p>(1) ア・特別指導案件は43件、55名と増加傾向。案件事象は今まで見られなかった重大案件から軽微なものまで多岐にわたる。生徒の規範意識を高めるためにカウンセリングマインドや未然防止の観点を意識し、数値の減少に努めたい。(△)</p> <p>・登校遅刻総数6,988回（生徒一人あたり平均11.0回）でまだまだ多い。授業遅刻やトイレ退出も増加傾向である。これらは規範意識と共に学校力が問われる数値と捉えて引き続き授業の大切さを再認識させる必要がある。(○)</p> <p>・コロナ後は始業式終業式を体育館で実施している。生徒だけで自主的に整列することはむずかしいが、毎回CDで校歌を流して静粛に式典を行っている。(○)</p> <p>イ・生徒会、保護者、教職員、地元域警察署と連携し地域に根付く学校をめざし広域生徒指導を行った。1回実施。(○)</p> <p>(2) ア・自己実現に向けてキャリアパスポートを各学期に2部作成した。(○)</p> <p>・外部模試受験者数は15名であった。4大短大の進学希望者が昨年より減少傾向であったが、個別に声かけをして昨年より人数を増やすことができた。(○)</p> <p>イ・夏季自主勉強会を実施し、全学年で11名が参加した。(1年0名、2年10名、3年1名)。また、3年生対象に特講を実施し、13名が参加した。計60回実施。(○)</p> <p>ウ・国公立大学0名であったが、公務員の合格者は1名であった。今年度は関係機関に依頼して学校でブース説明会を複数回実施し、生徒の公務員受験に対する意欲を高めることができた。(○)</p> <p>・公募制推薦入試等合格者数は15名であった。(○)</p> <p>エ・進路未決定者（進学浪人を含まず）は10.0%である。アパレル関係を希望する生徒を中心に自己開拓で行く生徒が増え学校斡旋が減少した。(△)</p> <p>(3) ア・体育祭、翔南祭（文化祭）ともにコロナ前の形態で実施。体育祭は、保護者、兄弟姉妹、卒業生の入場を復活させ応援合戦を中心に盛況であった。文化祭は、保護者と未就学の弟妹とし、近隣住民の入場は見送ったが、同窓会による初の出展があった。(○)</p> <p>イ・学習支援クラウドサービスへの登録と重複しているためメール発信ツール登録者1098件と若干減少した。(○)</p> <p>・昨年度多くを占めたコロナ関係の緊急連絡が皆無となったが、学校行事の案内呼びかけなどの連絡に活用。メール発信36件。(○)</p> <p>ウ・近隣大型商業施設の文化祭に有志生徒参加、泉南市人権委員会・泉南警察の活動に生徒会が参加、泉南市子育て支援センターに生徒が訪問(2回)来校(1回)、乳幼児を含む子どもや育児中の保護者と交流した。近隣保育園避難訓練の際手作りおもちゃをプレゼントして交流(2回)。計8回地域の活動に参加した。参加希望者が減少する中個別に声かけをして参加者が昨年度よりも増加した。(○)</p> <p>エ・校内学校説明会3回実施。吹奏楽部によるウェルカムコンサートやダンス部の演舞、生徒会による制服の説明などは好評であった。合計の申込人数が旧9地区生徒数減少の中でも230名が参加。塾等主催進学説明会に4回参加。ブース形式で個別に説明した。(○)</p> <p>・全教員で延べ80校の中学校に訪問。本校の特色や高校でのフォロー体制およびオープンスクールを案内。今年度は今まで泉鳥取高校を志願していた生徒の出願動向を調査した。私塾等主催の説明会3回参加。(○)</p>
-------------------------------------	--	--	---	--

府立りんくう翔南高等学校

<p>3 思いやりのある人間性をはぐくみ、未来の創り手となる人を育成する。</p>	<p>(1) 「自尊感情」の育成と「多様な個性」「ともに生きる社会」を理解できる教育活動を進める。</p> <p>(2) 美化・健康・保健・衛生管理・防災への意識を醸成し、清潔で整備された安心・安全な教育環境を実現する。</p> <p>(3) 特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成する。</p>	<p>(1) ア・志学、道徳教育、キャリア教育等と連動した総合的な探究の時間やホームルーム活動を充実させる。</p> <p>イ・生命の尊さを問う、また感染症を含む様々な偏見や差別を許さないなどの人権教育を充実させる。</p> <p>ウ・全教育活動を通して、生徒の変化や人間関係のトラブルを見逃さず認知に努め、機を逸することなく関係機関との連携にて校内委員会を開催するなど、組織として未然防止、対応、解決に向かう。</p> <p>(2) ア・事務室等との連携による施設、設備のより適正な維持管理に努める。 ・学校内外における美化活動及び清掃活動の充実に努める。</p> <p>・生徒保健委員会の取組みを充実させ生徒の健康意識の増進を図る。</p> <p>・食物アレルギー対応委員会を充実させ「学校における食物アレルギー対応ガイドライン」の周知を徹底するなどし、事故の未然防止に努める。</p> <p>・喫煙防止、性感染症防止、薬物乱用防止教育の推進。</p> <p>イ・地域の防災訓練に学校施設を貸し出すなど地域ぐるみによる防災意識の向上を図る。</p> <p>ウ・健康月間の設置し校内に設置された歯磨きスペースを活用し、歯磨き月間などを充実させる。</p> <p>エ・学校3師による健康相談の実施。</p> <p>(3) ア・部活動参加率は地域との連携を深め R6年度には35%とする。</p> <p>・クラブ活性化担当の配置、地域や外部人材との連携による部活動及びボランティア活動の充実に努める。</p> <p>イ・地域中学校との交流を推進する。</p> <p>・生徒主体の体育祭、翔南祭、学習発表会など学校行事を充実させる。</p> <p>・PTA 地域清掃活動を生徒会の通学路清掃と連携させて、生徒とPTAがともに校外で清掃活動を行う。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断による生徒の学校満足度（「自分のクラスは楽しい」の肯定意見）を80%以上とする。 【86.5%】</p> <p>イ・人権テーマ（同和問題、障がい理解などで当事者からの話を聞く等）を扱ったホームルームや職員人権研修を昨年並みに実施する。【生徒8回・教職員2回】</p> <p>ウ・認知後は速やかに会議を開催し、対応、解決に向かう。【会議数：26回】</p> <p>(2) ア・校内照明のLED化の促進。 【47ヶ所】消防設備を計画的に更新する。【80ヶ所】校内草刈りを定期的実施。【9回】</p> <p>・生徒保健委員会の研究発表会を2回程度実施する。【3回】</p> <p>・食物アレルギー委員会を学期に1回開催する。【3回】</p> <p>・学校保健の講演会を引き続き実施し肯定率を維持する。 【肯定率：喫煙防止教室91.0%、性感染症防止講演100%、薬物乱用防止教室97.0%】</p> <p>イ・近隣保育所等との連携を継続させる。【2回】</p> <p>ウ・歯の健康月間として年間2回程度実施する。 【紙面1回】</p> <p>エ・学校3師による健康相談を年に5回実施。【5回】</p> <p>(3) ア・部活動加入率を増加させる。 【26.6%】</p> <p>・ボランティア部や生徒会が主体となり、体験活動やボランティア活動について、10回程度の実績をめざす。【年4回延べ20名】</p> <p>イ・部活動について、中学校との連携回数を増加させる。 【11回】</p> <p>・学校行事に対するアンケートでの肯定的意見を増やす。 【80.4%】</p> <p>・一斉通学路清掃参加者を100名程度とする。【187名】</p>	<p>(1) ア・学校満足度は78.1%で、コロナ禍後の学校生活に慣れたため、昨年度比8.4%下降したが概ね達成している。(○)</p> <p>イ・生徒対象人権ホームルーム、講演会を計8回、教職員対象人権研修2回実施した。教職員対象には拉致問題動画視聴、同和問題についての講演を実施した。生徒対象の講演において、事後の感想より「共感できた・親近感がわいた」など多くの前向きな思いが確認できた。3年生においては自分の進路と関連させて考える生徒もいた。今後もより充実させ生徒、教職員の人権感覚を高めたい。(○)</p> <p>ウ・SC、SSWが加わるケース会議24回実施。いじめ対策委員会10回実施。年々増える個別の事象に組織的に対応している。(○)</p> <p>(2) ア・突発的な漏水、雨漏り、排水管詰まり、トイレ故障等が多発したが迅速に復旧を行い、安全で衛生的な校舎を維持した。その予算の関係で一部計画した目標に到達できなかった。 校内照明LED化40か所。(○) 消防設備42か所更新。(○) 校内草刈り年9回実施。(○)</p> <p>・毎月、生徒保健委員が教室前の消毒液の補充や管理、女子トイレにおける生理用品の管理を担当した。年3回の美化週間では毎日昼休みの校内放送で保健委員が美化の呼びかけをし、保健委員を中心に廊下や階段のゴミ箱清掃を行った。(○)</p> <p>・食物アレルギーに係る委員会を4月、10月、2月の3回実施。今年度事案は発生しなかったが、修学旅行前にエピペン所持生徒確認や他校の事例を共有した。(○)</p> <p>・喫煙防止教育講習会(98%)、性に関する講習会(99%)、薬物乱用防止教室(95%)と高い肯定率を維持している。(○)</p> <p>イ・保育所が本校に避難訓練を実施した際に手作りおもちゃをプレゼントして交流。2回実施。(○)</p> <p>ウ・感染症予防のため歯の健康月間は設定しなかったが歯科健診の結果報告をすべての生徒にコメントを添えて通知して歯の健康維持についての意識を喚起した。(○)</p> <p>エ・内科相談6回、歯科相談9回実施。内科は今のところ直接面談がないので、気になる相談を学校医に伝え、助言を生徒に還元する形をとった。歯科は虫歯の多い生徒を呼び出し、現在7名が歯科指導を受けている。(○)</p> <p>(3) ア・部活動加入率27.2%で昨年度より微増した。4月の当初にクラブトライアルを2日間設定して全クラブ顧問が1年生のクラブ体験を実施している。(○)</p> <p>・生徒会役員が地域清掃で誘導係や、オープンスクールでの生徒会活動及び制服の紹介を行った。また泉南警察と連携しオレオレ詐欺啓発活動を行い、警察から表彰されるなど、内容としては充実したものとなり、生徒の自己肯定感を向上させる活動となった。計5回延べ28人参加。(○)</p> <p>イ・中学との部活連携はバレーボール部を中心にのべ11回本校で複数の中学校との交流を実施。(○)</p> <p>・学校行事に対する肯定度では77.5%で、昨年度比で2.9%下降しているが、過去5年間の中でも高い数値となっており、概ね達成している。(○)</p> <p>・学校内外における美化活動について通学路清掃をPTAの協力のもと7/8と12/12に実施した。両日も50名以上の参加があった。合計120名。(○)</p>
---	---	---	---	---

府立りんくう翔南高等学校

<p>4 新たな課題に取り組み組織の構築</p>	<p>(1) 教職員の資質向上のため、授業改善を軸に、人権教育、いじめ防止、インクルーシブ教育、教育相談、食物アレルギーなど必要に応じたテーマで講演会や研修を実施する。</p> <p>(2) 働き方改革を推進する。</p>	<p>(1) ア・ミドルリーダーや外部講師により、授業改善（ICTを活用した授業実践に向けた研修）、偏見や差別を許さない、人権感覚の醸成、等の研修を実施し教職員の資質の向上に向かう。 イ・外部への授業公開を実施し、教員のさらなる授業力向上をめざす。</p> <p>(2) ア・働き方改革推進のため、週1回の午後5時の定時退庁日(金曜日)を設置する。同時に、月間超過勤務対象者にはその都度書面の提出を求め、管理職との面談を実施して改善を図る。 イ・時間外勤務時間削減のため、新たなシステムの構築と既存の業務の整理につとめる。</p>	<p>(1) ア・ミドルリーダーや外部講師により、授業改善等の研修を年間10回程度実施する。 【11回】 イ・外部への授業公開を3回実施する。 【10回】</p> <p>(2) ア・月間超過勤務80時間以上の年間延べ人数延べ回数を減少させる。 【6名、延べ18回】 イ・欠席連絡の効率化と時間外電話の自動メッセージの導入と活用。</p>	<p>(1) ア・職員向け校内研修として、AED1回、人権2回、初任10年研交流1回、公費私費会計1回、個人情報管理2回、不祥事防止5回、合計12回実施。(○) イ・外部紹介の授業公開は初任研、10年研等で合計6回実施。今年度は10年研対象者が1名であった。(○)</p> <p>(2) ア・時間外電話メッセージ対応による効果もあり、月間超過勤務80時間以上の年間1人、延べ1回で大きく減少した。当該教員とは産業医に加えて、管理職とも面談を実施して、勤務状況の改善について指導した。引き続き定時退庁を推進する。(○) イ・フォーム作成ツールによる連絡システムを利用する保護者が日々増加している。電話連絡による欠席連絡は全体の2割程度。導入当初電話対応の切り替えミスによる電話不通が2回あったが、大きなトラブルはない。(○)</p>
------------------------------	---	---	--	---